

令和5年度 笠間市教育委員会外部評価報告書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことになっていきます。

令和4年度に教育委員会が行った主要な8事業の外部評価を行いましたので、評価結果について、次のとおり報告します。

(1) 外部評価委員会

開催日 令和5年9月28日(木)

場 所 笠間市役所/教育棟 2階 2-2会議室

(2) 点検・評価事業一覧及び評価結果

No	事務事業名	担当部署	評価結果
1	図書館サービス事業 電子図書館運営事業	図書館	改善し、継続
2	公民館講座運営事業	公民館	改善し、継続
3	家庭教育事業	生涯学習課	改善し、継続
4	指定文化財保護事業	生涯学習課 文化振 興室	改善し、継続
5	スナッグゴルフ大会事業	生涯学習課 スポー ツ振興室	現行どおり継続
6	GIGA スクール運営事業	学務課	現行どおり継続
7	学校プール民営化事業	学務課	現行どおり継続
8	学校給食生産者支援事業	学務課 おいしい給 食推進室	改善し、継続

(3) 改善評価となった事務事業に対する意見及び対応

意見	対応
図書館サービス事業	
<p>電子図書館サービス事業</p> <p>利用者の具体的なニーズの抽出と対応した取り組みをすすめるよう新規事業の実施や改善をお願いしたい。</p>	<p>各種統計や社会情勢等から、具体的なニーズを抽出し、貸出数だけではない日本一の図書館を目指し、新規事業の実施や改善について、多角的に検討してまいります。</p>
<p>利用ニーズの把握は社会情報やリクエストということで、AIを活用した動向分析等を取り入れてみるとよりニーズの把握ができるかと感じました。</p>	<p>チャットボットやChatGPTを含め、多種多様なAIを活用できるかを整理し、取り入れることができるものについては、積極的な検討を進めてまいります。</p>
<p>司書の役割は高い。仕事とスキルアップの両立は難しいとは思いますが大事と考えます。</p>	<p>現在も各種研修を実施しておりますが、他機関の研修・セミナーを活用し、スキルアップに努めてまいります。</p>
公民館講座運営事業	
<p>オンライン、オンデマンド型を含めた多様な開講方法の効果的な活用方を引き続き検討願います。</p>	<p>オンライン型は、ライブ方式、オンデマンド方式双方ともメリットとデメリットはありますが、従前の対面型講座も含め、効果的で適切な手法を多方面から検討いたします。</p>
<p>公民館事業の必要性は高いと考えている。講座の充実のため内容の質の向上、受講生の増加を目指していただきたい。</p>	<p>専門的な知識の学習や地域の問題解決等、市民が生涯に渡り学ぶことのできる講座を開催することにより、更なる講座内容の充実と受講生の増加を目指してまいります。</p>
<p>働いている世代、子育て世代等時間が確保できない世代に対して短くオンラインで提供できる講座があればうれしいです。</p>	<p>短時間で魅力あるオンライン講座を開講することにより、幅広い世代に、いつでもどこでも学べる機会を提供してまいります。</p>
家庭教育事業	
<p>今後の要望として「参加したくてもできない」家庭へのアウトリーチ的な働きかけ、単発ではなく継続的な計画的実施をお願いしたい。</p>	<p>学校へ日程や時間帯、魅力的な内容を設定・提示できるように助言する。学校行事等と同時に開催等、受講者の物理的な負担を減らすことなどを通して、参加率を高めたい。また、ホームページ、学校のお便りでの広報や、県教育委員のWEBサイト「家庭教育応援ナビ」を周知していく。</p>
指定文化財保護事業	
<p>一般住民等の理解を深めること、理解を広げるための活動は必要と考えます。webページの充実等をさらにすすめられると良いと思います。</p>	<p>今後いっそうの文化財の周知・活用に取り組み、文化財公開等の実施により見て感じることでできる場を提供し、また、webページの充実により理解を深めていきたい。</p>
<p>既存の取り組みを継続発展させつつ文化財理解のすそのをさらに広げることができる取組も検討いただきたい。</p>	<p>今後の課題とした文化財理解のすそのをさらに広げることができるような取組を積極的に検討していきたい。</p>
<p>財源の確保、認知を更に行っていただけたらと考えます。認知され財源確保につながるケースもあるかと思えます。</p>	<p>財源の確保につながる取組を積極的に検討していきたい。</p>
学校給食生産者支援事業	
<p>食育の観点は大変なことであると思います。「学校教育において生産者への視点をどのように教えるのか等」教室で学ぶことにつなげる視点をもってさらに工夫されることを期待します。</p>	<p>地産地消を進めるにあたり、食育として生産者との交流給食の場を設け、子どもとの意見交換を行うことで、学校給食の背景にある生産者の努力や苦労を理解してもらえなど食育に有効であることから、積極的に生産者との交流を進めていきたい。</p>
<p>今後費用面での制約の中で現実的に実現可能な方策を検討いただくとともに食育の成果を可視化できるような方法を検討いただきたい。</p>	<p>新たな献立の検討等、更なる進化を目指したい。また、食育の成果として広報誌、マスコミ等への広報活動のほか、アンケート等により子どもの給食への評価の情報を得ていきたい。</p>
<p>食育の観点から地元産の栗を子供たちに知ってもらえるような場を設けていただき何か協力できればと思います。</p>	<p>地域や季節の農産物の食育として栗は最適な食材である。子どもへの関心を持たせるため、生産者等の協力を得ながら、交流給食を実施していきたい。</p>